

## 「富士登山競走に参加して」

青森県 佐々木和子（旧姓 中島）

☆成績：山頂コース 優勝4回 歴代2位

第39回（1986年・S61年） 優勝 2時間51分36秒（歴代最高記録保持者）

第40回（1987年・S62年） 優勝 2時間59分33秒

第41回（1988年・S63年） 優勝 2時間56分31秒

第42回（1989年・H元年） 優勝 3時間02分12秒

私が初めて富士登山競走に参加したのは、大学一年の夏にスキー部の練習の一貫としてでした。目の前にそびえる富士山を初めて見て、この山の、あのとっぺんまで本当に走って登れるのだろうかと思われられない気持ちでした。

その時はチームメイトと共に、とにかく制限時間内に完走すること、それが目標でした。

その当時、他のスキー部の方たちも長いオフトレーニングのひとつとして、クロスカントリー走や登山を取り入れていたので大勢参加していました。私自身スキーで強くなりたいと、自分の力を伸ばしたいと強く思い始めたのも、この頃からです。

その後、社会人となりスキーや陸上競技を続ける中で、トータルで8回参加させていただきました。長い、長い山頂への道のりも、一歩踏み出せば確実に一歩山頂に近づく、この一歩が次の一歩へ続くように、あきらめずにただ淡々と、自分との闘いに負けないようにと、いつの時もそう思って走っていました。

スキー競技を続けている時、仲間と長野、新潟、富山、北海道、東北の各地で合宿をしました。その時、各地の山を登りました。日本には数々の山が存在していますが、その山の中でも、日本一の富士山を走って登る大会があることが驚きでした。

私にとって、この大会ほど、長くて、暑くて、苦しい過酷なレースはありませんでした。そんなに苦しいレースなのに、なぜたくさんのランナーをひきつけるのでしょうか。

走るたびに、五合目にたどり着くと「ここからが勝負」と、自分に言い聞かせ、ほっとしてペースが緩む気持ちを引き締めていました。

登山道は一般の方も登っています。そんな登山者の方々の脇を「すみません」と言いながら、一歩踏み出せば半歩ズルズルと下がってきてしまう石の道を、膝に手をつき歩いてしまいたい気持ちを必死に抑え、走り続けるんだという気持ちだけで走っていました。実際にはたぶん歩いているに等しかったかもしれませんが。そんな一歩の繰り返しで、ひたすら無心で山頂を目指していました。

自己の限界に挑戦する、誰にとってもそんな大会なのではないでしょうか。

富士山を走っていた頃、仲間や環境に恵まれ、ひとつのことに夢中になって打ち込んでいました。充実した青春の一ページを過ごしていたと改めて感じています。

このレースは給水など影で大会を支えてくださる方なしでは、ランナーは走りきることはできません。そういった方々のおかげで私も完走することができました。本当にありがとうございました。

毎年たくさんのランナーを魅了しているこの富士登山競走が、今後もランナーに愛され、開催され続けることを祈っております。(令和3年6月30日記)